

1. 実況上の着目点

- ① アムール川中流域には500hPa 5100m以下で-42°C以下の寒気を持つた寒冷渦があつて東南東進。
 ② オホーツク海には低気圧があつて北北西進。大陸の高気圧との間で日本付近は冬型の気圧配置となっている。全国的にやや強い風や強い風が吹き、波の高い所がある。また、日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)が北陸地方を指向している。JPCZの近傍や南側は相対的に暖かく沿岸では雨の所が多いが、それより北の北日本では3時間に5~10cmの降雪を観測。北陸地方では雷を検知。

- ③ 南西諸島は気圧の谷となっており、激しい雨を解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の寒冷渦は1月1日には北海道地方へ、2日にかけてはオホーツク海へ進み、1項②の低気圧は寒冷渦直下のオホーツク海で動きが遅くなる。冬型の気圧配置は2日にかけても続き、JPCZは南下して2日にかけて西日本を指向する。また2日は、500hPa 5280m付近と5580m付近のトラフが位相を合わせて本州付近を通過し、850hPa -9°C以下の寒気が西日本太平洋側まで南下するため、普段雪の少ない地域でも降雪となり大雪となる所がある。寒冷渦や強い上空寒気とJPCZ近傍の下層暖湿気の影響等で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い降雪が強まって大雪となる所がある。北日本では2日にかけて、東~西日本では2日は、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれに注意。東北地方では31日は、大雪による交通障害に警戒。北~東日本では2日にかけて、西日本では1~2日は、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。これまでの雨で地盤の緩んでいる北陸地方の沿岸では31日は、土砂災害にも注意。また、冬型の気圧配置やJPCZの影響で、雪を伴つてやや強い風や強い風が吹き、波がうねりを伴つて高くなりしける所がある。全国的に2日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

- ② 1項③の気圧の谷は、大陸の高気圧の張り出しによって次第に解消するが、南西諸島では31日は、局地的な激しい雨に注意。また、日本の南の別の低気圧が、1日は前線を伴い小笠原近海を通り日本の東へ進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。小笠原諸島では発雷の可能性があるので留意。

- 3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2日のJPCZの指向先によって西日本の降雪量予想に幅がある事に留意。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】** ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間)：東北80、北陸70、北海道30cm。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・沖縄5、北陸・奄美4、その他広い範囲で3m。④ 大潮の時期。北海道地方と北陸地方では、注意報基準を超える所がある。

- 5. 全般気象情報発表の有無** 「大雪に関する全般気象情報」を17時頃発表予定。

